

三鷹市立中原小学校 令和5年度【体育】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		<p>【現状】 ○体育の時間を心待ちにし、各種の運動遊びを楽しもうとすることができる児童が多い。</p> <p>【課題】 ①自分や友達の動きの良さに気付く場面を増やしたい。 ②友達と一緒に体を動かしたり、協力することで楽しさが増すことの経験を積ませたい。 ③水遊びの経験が少なく、水を怖がって顔をつけられない児童が数人いる。また、潜ることはできるが、全身の力を抜いて浮くことのできない児童が多い。</p>	
第2学年	<p>【成果】 ○児童の運動量を確保し遊びを通して運動に親しむことができるようにした。 ○互いのよい動きを認め、自分の動きに取り入れたりと、振り返りの場を設定することができた。</p> <p>【課題】 ○技能差を埋めるために、1年間を通して馬跳びやタイヤ跳び、おにあそびといった活動を入れたが、技能差は埋まらなかった。</p>	<p>【現状】 ○固定施設を使った運動遊びや器械・器具を使った運動遊びでは、学習カードを使い色々な技を提示したことで、自分たちで挑戦し取り組む姿が見られた。</p> <p>【課題】 ①遊びとして経験している児童とそうでない児童の技能差が大きい。特に、投げることに関しての体の使い方に課題を感じる。 ②全体的に持久力が低い</p>	
第3学年	<p>【成果】 ○過去に経験した道具や材料を活用して新しい題材に取り組むことのできる児童が増えた。 運動をすることは楽しみながら行っている。 ○ICTを活用することにより、自分の取り組みたい技を決めて実施をしたり、動画を撮影し、改善する姿も見られた。</p> <p>【課題】 ○勝つことにこだわりすぎるあまり、友達に強く言ってしまう児童がいる。 ○苦手意識がある領域を初めからやらない児童がいる。</p>	<p>【現状】 場の安全に気を付けながら、友達と協力して運動することができている。</p> <p>【課題】 ①各運動に対する適切な知識や理解が定着していない。 ②運動をする目的意識やゴールイメージがずれている。 ③基本的な運動能力や運動する習慣が身に付いていない児童がいる。</p>	
第4学年	<p>【成果】 ○ICT機器の活用を積極的に行い、動きの広がりに繋がった。 ○グループ活動や伝え合う活動を工夫して取り入れ、友達と関わり合う場面が増えた。</p> <p>【課題】 ○ワークシートを用いてめあてを記入させたものの、そのめあての意識を維持させる声掛けや工夫が足りなかった。 ○ICTの活用が技能の習得のためのポイントやこつの伝え合いに繋がるように活用する必要がある。</p>	<p>【現状】 ○高学年の学習に繋がるよう、技能習得よりも興味をもたせる、楽しみながら運動することに重きをおいて学習している。</p> <p>【課題】 ①これまでの運動経験が積み重なっていなかったり、各運動に対する適切な知識や理解が定着していなかったりする。 ②友達と関わり合いながら運動をしたり、友達よさなどを見つけたことが難しい。</p>	
第5学年	<p>【成果】 ○ICT機器を活用し、課題解決の方法などを示すことができた。 ○感覚づくりや遊びの要素を取り入れた運動をすることで、楽しく運動に取り組めるようにした。 ○友達よさに目が向くように、友達と関わる場面を意図的に組んだり、グルーピングを工夫したりすることができた。</p> <p>【課題】 ○自己の能力に適した課題が見付けられるような支援・助言が足りなかった。 ○運動の基本的な技能ポイントや互いの動きを見合うときの視点（知識）は示したものの、それを理解し身に付けさせる指導が足りなかった。</p>	<p>【課題】 ①これまでの運動経験が積み重なっていなかったり、各運動に対する適切な知識が定着していなかったりする。 ②自己の能力に適した課題を明確にして活動に取り組んでいる児童とそうでない児童の差が大きい。自己の課題が明確になっている児童でも、課題解決の視点や方法が理解できていないため、支援する必要がある。 ③運動の日常化につながっていない児童が多い。（二極化している） ④粘り強く学習に取り組める児童とそうでない児童の差が大きい。</p>	
第6学年	<p>【成果】 ○ICT機器を活用して、自己の課題解決をしたり、友達の運動の様子と比べたりするなど、学習に対して粘り強さや調整する姿が見られた。 ○グルーピングを選択する視点や運動の場の選択など、個別最適な学びを自分で組み合わせることで、意欲的に学ぶだけでなく、さらなる工夫をする児童が増えた。</p> <p>【課題】 ○資料や場が多すぎると、活用し切れていない様子も見受けられた。適切な量の資料と場を設定する必要があると感じた。 ○課題のポイントを絞り切れていない様子があった。特に動画を見る視点が必要。</p>	<p>【現状】 ○自己の課題を見つけ、それに対して学習を進めている児童と漠然と運動を行っている児童で、運動の効果が大きく異なる。</p> <p>【課題】 ①課題を明確にしているが、能力的な問題で解決できない児童に対して、体育の見方・考え方（する、見る、支える、知る）の視点で支援する必要がある。 ②技術は高いが、思考が伴っていない児童に自己省察を促す必要がある。</p>	